

あゆみ通信

VOL. 188

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会)推進員連絡協議会
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

総会に来てね

12/15(日) 南照寺で

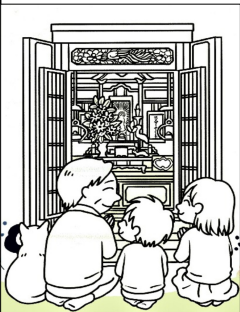
2008年12月に誕生した「あゆみの会」も、今年で16年。

おかげさんで、皆さんも私も、歳をとりましたね。親等の縁でお寺との関りが出来て、それまで日々の生活に夢中になっていた身も、お内仏に向かうことが多くなりました。

でも、歳を経るごとに、我が身も含めて体調に支障が出来て、顔を合わせるお仲間が減るのは寂しいことです。

それでも、そんな私たちを変わずに照らし続けてくださるものがある。それが他力の信心だと教わりました。

体調の許す方は、久しぶりの同窓会のつもりで、総会に参加くださいませんか。お待ちしております。



あゆみの会総会

日時 2024年12月15日(日)
午後1時30分から

会場 南照寺(天王寺区茶臼山町)
内容 総会(事業報告、会計報告、事業計画、予算案等)、法話、座談会

講師 友澤秀三先生(南照寺住職)
参加費 無料

その他、2025年年会費受付けます。

第2組同法会が開催

2024年10月22日(火) 午後2時から、天王寺区の佛足寺において、今年最後の第2組同法会が、組内の住職や坊守、門徒や推進員28名が参加して開催されました。

墨林浩組長(光照寺住職)により真宗宗歌で開会、清水拓



佛足寺住職の調声で勤行を。今回も先月に引き続き、講師は廣瀬俊先生(17組法観寺)が『初めての正信偈』の「一切善悪凡夫人～難中之難無過斯」をお話いただきました。

冒頭、先生は担当の個所の傍訳を全員で通読し、そして、今回で終了の「依経段」をまとめ、「総讃」「弥陀章」「釈迦章」「結誠」と分けて、要約されながらご説明をされました。

その後、先生はいつもの小道具を駆使されながら、



凡夫について、信心深い妙好人の浅原才市さんの「凡夫が仏になることは、仏が凡夫になって凡夫を仏にすること、南無阿弥陀仏」を引きながら話されました。そして、アニメの「ドラえもん」のドラえもん(仏)とのび太(凡夫)を見たてられ、また『スタンド・バイ・ミードラえもん』の主題歌「ひまわりの約束」(歌・秦基博さん)の詩を紹介され、また、作者の藤子F不二雄さんの「ドラえもんはどこにでもいるのです」の言葉を紹介し、何処にでもいるのに、気付いていないのが私たちだと話されました。

休憩後は「邪見驕慢悪衆生」について、邪見や驕慢は私一人のことを指しており、金子大榮先生の「真宗の信心は受

親鸞のことば

信じる心はただひとつ

源空が信心も、如来よりたまわりたる信心なり。善信房の信心も如来よりたまわせたまいたる信心なり。されば、ただひとつなり。歎異抄

ある人の信じる心と、また違った道を歩んできたある人の信じる心は、普通同じではありません。しかし親鸞は、真実の信心は一つだと言います。阿弥陀さまから賜った心だから一つだと。このような真実の信心に、親鸞は誰もが平等に救われる根拠を見たのです。

ある先生は、この救いを「如来、我となりて我を救いたもう」(阿弥陀さまが私となって、私を救ってください)と言います。真実の信心は阿弥陀さまの心そのものなのです。

また先生のこの言葉は「我、如来となりて」ではなく「如来、我となりて」です。ここに浄土真宗の信仰における大切な点が表されています。私たちは前者に陥りやすいのです。念仏するようになると、自分が阿弥陀さまになったかのように振る舞い、周りが迷惑することがあります。どこまでも後者、阿弥陀さまが私にはたらき出て私を救ってくださいと言うのが、信仰の味わいです。(名古屋学院大学「人生を照らす親鸞の言葉」より)

たゆまぬ歩みを共に

2024年が、終わります。この年も悲しい出来事がいろいろありました。日本でも世界でも災害や戦争が激化し、日本も昔を忘れたかのように。憲法を無視するような防衛拡大政策が打ち出されています。

さて、仏法の教えを聞いている私たちは、どうしたらいいのかを、あらためて問われています。ただ、座り込んだり、止まることなく、ゆっくりではありますが、年末年始を共に手を携えて歩んでいきたいものです。

南無阿弥陀仏。(本)

容の信心(手で受け、腹に入れる)である」と言う言葉を紹介されました。

また、信心と願いについて、親鸞聖人の『高僧和讃』から「仏号むねと修すれども/現世をいのる行者をば/これも雑修となずけてぞ/千中無一ときらわれる」で、私の願いだけをいのるものであれば、千に一つもかなわないと。また、曾我量深先生の言葉「信に死し/願に生きよ」を紹介されて、真城義麿先生は「真宗の信心をいただいたなら、『私が』と言う自分の都合を中心の私が崩れて願に生きると言うことは、本願に生きると言うことです」と言う解釈を紹介されて、仏さまの願いに気付くことは、それは今の自分の姿に気付く、つまり自分中心に生きてきた自分の姿が見えてくるんだと話されました。

終わりに、佛足寺ゆかりの『恩徳讃1』を斉唱して閉会しました。

如是我聞 廣瀬先生法話聞書2 佛足寺 細川 克彦



今日は「正信偈」依経段の終わりまでと言うことで、前半は「一切善悪凡夫人」から「是人名分陀利華」のところを話されました。

まず、「一切善悪凡夫人」から依経段の終わりまでのテキストの傍訳を皆で唱和しました。「私

だけ」と言う煩惱に縛られている私たちが、仏さまの教えを聞いて、本当に願って生活する人を分陀利華(白蓮華)と名づくと。



妙好人と言われる浅原才市さんの「凡夫が仏になることは、仏が凡夫になって凡夫を仏にすること、南無阿弥陀仏」と言う詩を手振りをつけて紹介されました。

また、まんが「ドラえもん」が映画になって、終わりに歌われる歌を紹介されました。「ガラタだったはずの今日が二人なら宝物になる」と言う歌詞で、煩惱ばかりののび太がドラえもんと言う友を得て、比べなくていいと言う仏さまの智慧を得、のび太たちの生活が宝物のようになると。そして、またドラえもんは私たちの回りのどこにでもいると話されました。

休憩後は「弥陀仏本願念仏邪見驕慢悪衆生 信樂受持甚以難 難中難之無過斯」について話されました。邪見・驕慢の悪衆生と言うのは、自分優先と思い上がりの心から離れられない私たちのことであると。

そして、ある掲示板の言葉「信心とは 教えを鏡としてそこに映る自分をそのままにいただくことである」を紹介されました。

また、曾我量深師の『親鸞聖人700回御遠忌』での講題「信に死して

大阪教区宗祖親鸞聖人ご生誕850年・立教開宗800年慶讃法要 2025年4月17日～20日

日程	時間	内容	司会
4月17日	17:00～18:00	開会式	大谷 裕 門首
4月18日	17:00～18:00	法要	大谷 裕 門首
4月19日	17:00～18:00	法要	大谷 裕 門首
4月20日	17:00～18:00	法要	大谷 裕 門首

願に生きよ」について、如来の本願(仏さまの願い)という鏡によって、今の私の姿が見えてくる。教えは至る所にあり、気付く、気付くと言われる。気付いた時、自分の都合を中心生きる私が崩れ、如来の本願を中心にしてモノを見て、考えて生活していく者になると、真城義麿先生の解釈を引かれて話されました。

最後に、東井義雄先生の御本にある「元服」と言う、ある中学生の作文を紹介されました。

いつも見下していた同級生が入試に合格し、自分が不合格になった時、その同級生が涙をいっばいたため、「僕だけが通ってしまっでごめんね」と会いに来てくれた。その時、自分の思い上がりに気付かされ、自分はこれまで思い通りになることだけが幸せだと考えてきたが、その同級生のお陰で、思い通りにならないことの方が、人生にとって、もっと大事なことで知らされたと言う文章を読んでもうございました。